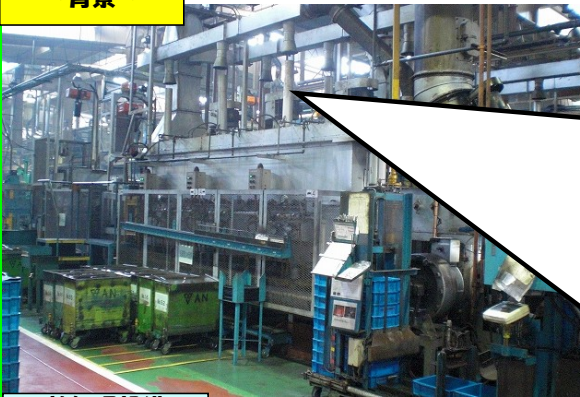




活動内容

熱処装置では高温で受傷リスク(火傷)の高い部品が多く存在する。そのため通常では危険な部位に作業者が接触しないよう作業エリアを厳しく設定している。
しかしながら突発的なトラブルや故障が発生した際、保全作業でやむを得ず危険範囲への進入が必要となる。その際どこが高温で危険な部位であるのか人の目では判断ができず、知らぬ間に高温な部位に触れてしまうケースが多く発生していた。そこで、高温で危険な部位が人の目で判断ができるようにサーモグラフィー画像・データを基に「設備高温マップ」を作成し危険部の「可視化」し保全作業時の受傷リスクを低減(頻度)させる完全改善活動に取り組んだ。

～背景～

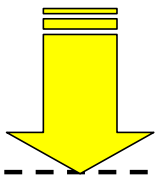


～熱処理設備～
(炉内温度600℃)

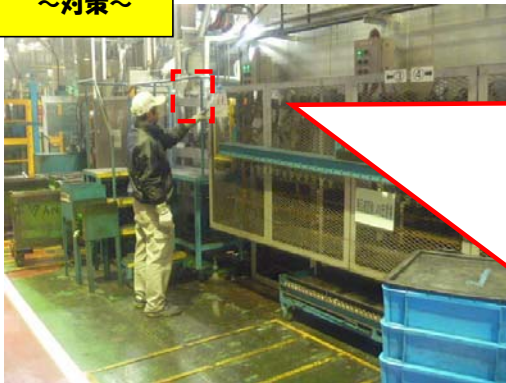
同じ形の配管。でも。

37℃ 85℃ 131℃

温度はこんなにも違う!!



～対策～



設備危険(高温)の可視化 ～設備高温マップの作成～

焼鈍炉(L02)設備高温マップ 作成: 保全課

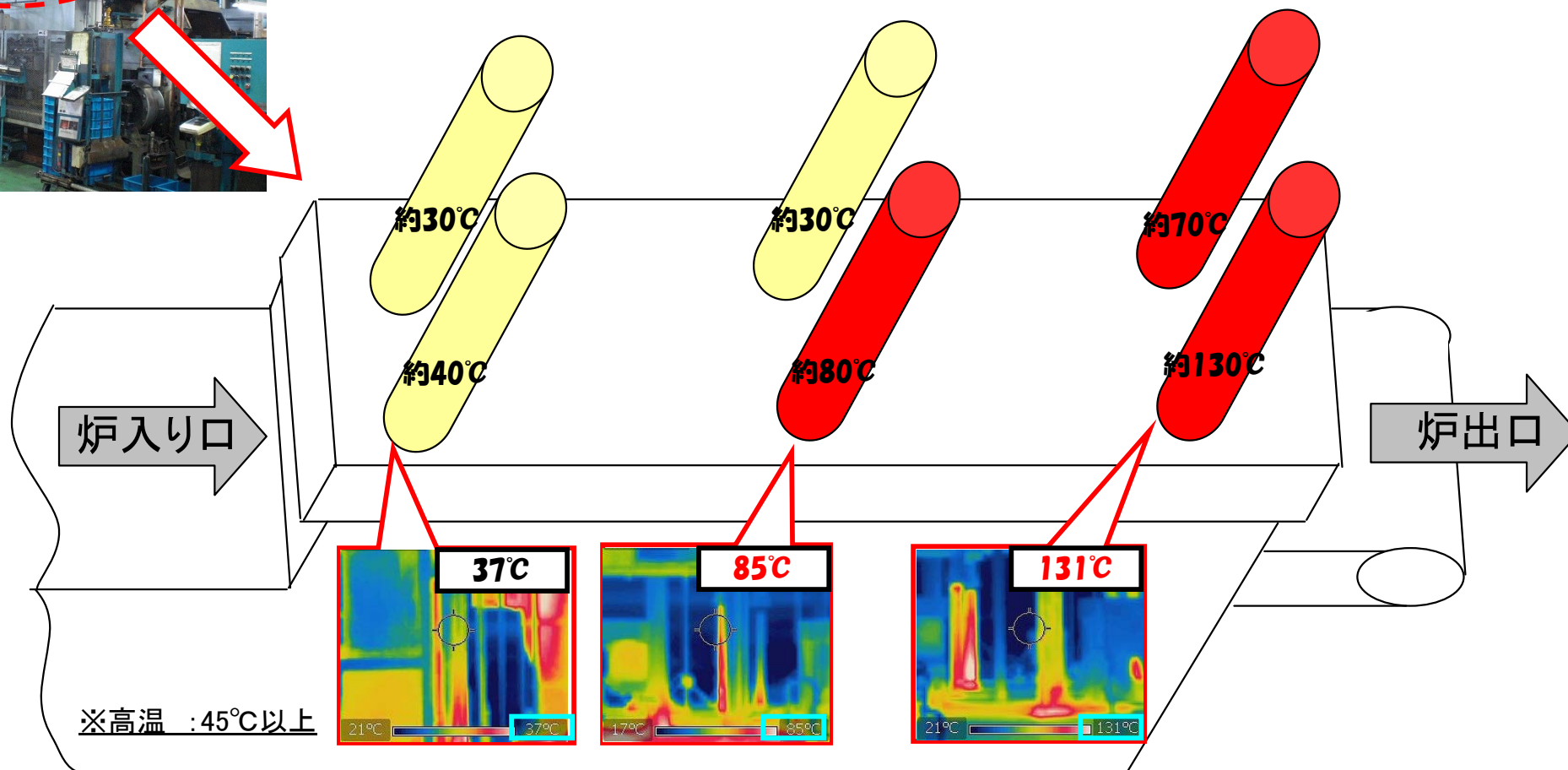
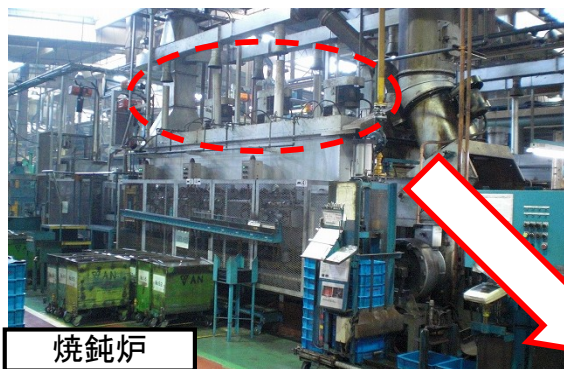
炉入り口 炉出口

※高温 : 45℃以上

～上記の配管(赤色)は高温です!!～
メンテナンス等で配管に接近する場合には高温の配管に十分注意すること。

焼鈍炉(L02)設備高温マップ

作成： 保全課



～ 上記の配管(赤色)は高温です！！～
メンテナンス等で配管に接近する場合には
高温の配管に十分注意すること。